

6年 総合的な学習の時間

「発見！白野江」～部埼灯台編～

6年生は、総合的な学習の時間に白野江のよさを発見する学習に取り組んでいます。白野江の自慢の1つは、部埼灯台です。5月25日、海上保安庁の方の案内で実際に灯台の中を見学させていただき、灯台についての貴重なお話を聞かせていただきました。

海上保安庁の方の話や自分達で調べたことをまとめました。

部埼灯台とは

所在地 福岡県北九州市門司区白野江

点灯年月日 明治5年1月22日

光が届く距離 17,5海里

設計者 リチャード・ヘンリー・ブラントン

塗色 白色

構造 円形・石造



部埼灯台は、企救半島瀬戸内海周防灘に面した石造の大型灯台で、福岡県北九州市門司区白野江にあります。

2020年には国の重要文化財に登録されました。日本の灯台50選に選ばれ、歴史的文化財の価値が高いAランクの保存灯台です。九州にある現役の灯台で最も古く、約150年も働き続けています。九州では3番目に、日本では15番目に古いといわれています。

青い空に映える重厚な白御石造りの灯塔やフランスから輸入した回転式レンズが美しい高さは、水面から39m、地上から6.5mで、灯台の光は32kmまで届きます。

歴史

- 1867年(慶応3年) 江戸幕府兵庫開港に備えてイギリスと灯台の築造を約定(大阪約定)
- 1872年(明治5年) 5箇所灯台の1つに灯台完成 1月22日点灯九州で3番目に建てられた歴史的文化的価値が高いAランクの保存灯台
- 1895年(明治28年) 回転式レンズになる
- 1998年(平成10年) 日本の灯台50選に選ばれる
- 2004年(平成16年) 門司海上保安部が管理
- 2020年(令和2年) 重要文化財に指定される

僧清虚

僧清虚、本名太兵衛（ふとべえ）は、1777年（安永6年）に誕生しました。大分県出身です。若いころに友人を殺めてしまいます。その菩提を弔う為に修業に明け暮れていました。部埼を船で移動している時、船に乗っている人々が念仏を唱えていました。そこは、船の遭難が多い場所でした。

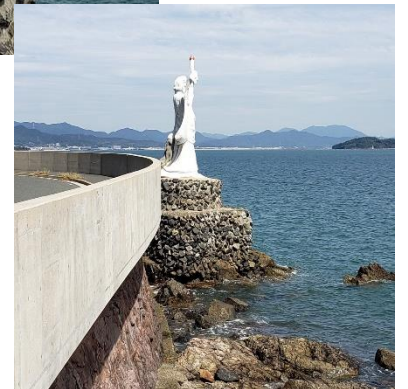
そこで、僧清虚は、61~74歳までの間に、航路の道標になればと火を焚き続け、1857年に亡くなりました。

僧清虚像（大分県）

像の場所	大分県 国東市 国見町伊美 4652
材質	コンクリート
創設	昭和49年（1974年）
高さ	14m（台座込み）



僧清虚像（北九州市門司区）



設計者について

リチャードヘンリーブラントン
イギリススコットランド出身
生年月日 1841年 12月26日

ブラントンが最初に作った灯台は、和歌山県の檜野崎灯台で、作った灯台の数は26機です。ブラントンは日本の灯台の父と言われています。

17歳から鉄道会社の技師の助手となり修行し、その後、鉄道技師や港湾計画に携わります。灯台技師として、1868年（明治元年）に政府に招かれて来日しました。1876年（明治9年）までの7年半ほどの間に数多くの関係施設を設計施工監督しました。

灯台を守る会について

部埼灯台では、ボランティア(地元の住民、漁業関係者など)の方が、毎月1回灯台敷地内の掃除などを行っています。2005年(平成17年)から始まり、午前10時30分から1時間30分程度活動しているそうです。

活動理由

灯台のある高台が草や樹木が伸び放題になっている



(効果)

現在では部埼灯台の美しい景観が守られている

部埼灯台について調べてみて、他の人達にもっと灯台のよさや美しさを知ってもらいたいと思いました。

部埼灯台を守る会のおかげで、灯台がきれいに保たれていることを知りました。



事故を減らすために火をたき続ける僧清虚さんは、優しくて人々のために行動できる人だと思いました。

部埼灯台が歴史を積み重ねてきたことを、もっといろいろな人々に知ってもらいたいです。

リチャードヘンリーブラントンは、「灯台の父」と言われるほどたくさん灯台をつくってきたんだなと思いました。